

2017/18 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報



ロータリー：
変化をもたらす

第 2619 回例会 2018 年 1 月 24 日 (水) SAA/ 宮武会員 会報担当 / 宮武会員

事務局 市原市五井中央西 1-22-25 市原商工会議所 2F 例会場 五井グランドホテル

- 点 鐘 市原 RC 会長 山本順也
- ソング 手に手つないで
- お客様 千葉緑RC 渡部会長、横井幹事
ソーシャルアートラボ 小川 起生様
地区米山記念奨学委員会 山内みどり様
米山奨学生 キム チュウアイ様

始関会員 (会員研修委員会)
小池ガバナー補佐

- 会長挨拶 市原 RC 会長 山本順也



本日のメインプログラム

米山奨学生 キム チュウアイ様 卓話

皆さんこんにちは。昨日の朝は雪で皆さん大変だったと思います。また、インフルエンザが非常に流行っていますので、お気お付けください。

2月7日は第3分区B インターシティ・ミーティングです。市原 RC がホストクラブになりますので、移動例会としています。なるべく多くの皆様にご参加いただきたいと思います。詳細は後ほど、小池ガバナー補佐よりお話しがございませう。

さて、本日は米山奨学生の卓話です。米山梅吉さんは1920年に日本で最初の東京ロータリークラブを設立し、初代会長に就いた方です。その功績を記念して1952年に米山奨学金が東京 RC で始まりました。1967年には当時の文部省から許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。キム・チュウアイ様宜しくお願ひ致します。

◆◆◆◆◆ニコニコ・ソーリー◆◆◆◆◆

小池会員 IM の出席と当日のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

西村会員 地区米山奨学委員会 山内様 奨学生キムさん有難うございます。キムさん日中の架け橋になってください。

山本会長・高澤幹事 キム様、山内様卓話ありがとうございます。

■出席報告 前々回確定 70.27% 本日出席 27 名
欠席 17 名 本日出席率 65.85%

■点 鐘 市原 RC 会長 山本順也

◆◆◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆◆◆

本日 17 時半より千葉北 RC20 周年式典がホテルポートプラザちばにて開催されます。市原 RC から 9 名が参加予定です。

◆◆◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆◆◆

平成 30 年 1 月 24 日

米山記念奨学生卓随行にあたり

国際ロータリー第 2790 地区

米山記念奨学委員会

2017-18 年度委員 山内みどり

皆様こんにちは。只今ご紹介をいただきました、地区米山記念奨学委員会の委員を仰せつかっております茂原 RC の山内でございます。

市原 RC の皆様には、日頃より米山記念奨学会への活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本日は貴重な例会のお時間に、奨学生の卓話の依頼をいただき感謝申し上げます。本日卓話をさせていただきます奨学生は、中国出身で千葉大学大学院 博士課程 3 年看護学部 に在学中のキム チュウアイさんです。世話クラブは八街 RC です。現在学んでいる分野につきましては後程お話いただけることと思います。

卓話に入る前に、私から地区の 活動状況を少しお話させていただきます。今年度当地区は新規奨学生 19 名、継続奨学生 6 名 合計 25 名の奨学生のお世話を致しております。米山記念奨学委員会の活動方針は、奨学生の個性を活かした育成をすると共に日本の文化と習慣を学んでいただきたいと思っております。また奨学生には奨学生終了後もロータリーの学友としての存在や意義を理解し、活動して欲しいと願っております。

続きまして、今年度奨学生並びに地区委員会の活動状況を、簡単にご紹介させていただきます。既に 4 月 15 日にカウンセラー、奨学生、指導教員合同のオリエンテーションを開催、5 月 20 日、6 月 24 日、7 月 22 日に奨学生研修会、7 月 14 日には次年度に向けての学校説明会を開催、9 月 2 日には米山学友主催のバーベキュー大会が開催されました。10 月 15～16 日に米山梅吉記念館探訪研修旅行を行いました。また先週 13、14 日の 2 日間に亘り次年度奨学生の面接及び判定会が開催されました。年末年始には学友会主催の忘新年会が開催され、色々な行事を通し奨学生は、カウンセラーやロータリアンとの親睦を深めると共に、米山奨学生としての自覚を持ちつつあります。

以上雑駁ですが、地区米山地区委員会の活動状況をご報告させていただきました。最後になりますが、ロータリー米山奨学事業の使命であります世界平和と奨学生が将来母国と日本の架け橋になる為にも、本日の奨学生の卓話を通じ皆様に理解を深めていただき、今後共米山記念奨学会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ私の挨拶と致します。有難うございました。

自己紹介

私は中国の黒竜江省の小さな市 ミーシャンで生まれて、私が大学の時哈尔滨に引っ越しして行きました。哈尔滨というご存知の方が多くいらっしゃると思いますが、おそらく昔の哈尔滨で、今の哈尔滨はとても変わっています。哈尔滨は昔から「東方の小パリ」、または「東方のモスクワ」という美名を持っています。市内には、中国と西洋両方の建築スタイルが融合した、雄大な聖ソフィア大聖堂、ゴシック式の建築、ヨーロッパ風の中央大街といった異国風に満ちた建築がいっぱいあり、まるで東ヨーロッパにいるようです。私が卒業した大学 黒龍江中医薬大学のキャンパスにもヨーロッパ風の建物が残っています。

私は中国人留学生ですが、中国の少数民族の一つ朝鮮族ですので、まずは簡単に中国の朝鮮族についてお話ししたいと思います。中国人朝鮮族を、在中韓国人とか、在中朝鮮人とか色々な呼び方で呼ばれていますが、実は、中国は 56 民族からなっており、朝鮮族はそのうちの一つの民族で朝鮮族と呼ばれるのが正しいと思います。朝鮮族を歴史的な一面からではなく、私の成長環境からお話し致します。私は 1988 年生まれで、1990 年代の朝鮮族はどんな様子かというと、小中高校は朝鮮族だけが通う学校があって、その学校では朝鮮語と中国語両方で授業を受けて、家に戻ったら朝鮮語で話していました。90 年代までも朝鮮学校が多かったのですが、最近になって朝鮮族学校がますます減ってきて、私の故郷の朝鮮族学校は殆ど無くなってきました。ニュースで見ましたが、2001 年には 270 校、11 万 3200 人だったのが、2016 年には 72 校、2 万 6900 人に、それぞれ 73%、76%減少しました。72 校のうち、生徒数が 25 人以下の学校が 20 校、6 人以下の学校も 10 校あり、今後数年でさらなる減少が予想されると言われていました。このままなら、朝鮮族がなくなるのではないかと心配です。

中国の朝鮮族は主に吉林省に居住して、特に吉林省延辺朝鮮族自治州に集中しています。他には黒竜江省、遼寧省、内モンゴル自治区にも分布しています。朝鮮族は年中行事には、ほぼ中国の漢民族と同じですが、伝統的な“春節”、“旧暦 1 月 15 日のボルム”、“清明”、“ダンオ”、“チュソク”などがあります。ここで、春節の食文化を例とします。春節の食事文化は地方によって相違があるだろうけど、また各民族によっても少し違いがあります。中国の漢民族の場合は、春節に餃子、八宝飯、春餅、お魚料理などを食べますが、朝鮮族の場合は、チヂミ、米粉を蒸したお餅、石焼ビビンバ、豚足などを食べます。

以上のことだけではなく、中国朝鮮族は他の民族と違って、例えば言語、生活習慣、家庭教育、考え方などの面でも自分のアイデンティティーを強く意識しています。しか

し、宗教や学校教育などについては強い民族意識が見られていないと思います。

学校名と専門分野

わたしは、2010年に黒龍江中医薬大学で看護学を卒業してから、中国の広州中医薬大学附属病院で働き始め、臨床看護学の継続教育を受けながら、日々忙しい雰囲気の中で過ごしていました。

そこで、初めて海外の看護系大学院を卒業した看護学教師の講義、経験談を聞いているうちに、「自分も海外の優れた看護学研究者に出会い、その研究教育組織の中に入って、先端的な研究に触れて勉強することが、今後の自己の進路に大きな影響を与える貴重な経験になるだろう」と考えるようになりました。

海外に留学したい気持ちが増え強くなって、臨床についてから半年で辞めることを決め、日本に留学することにしました。日本に留学しようとした理由として、中学校から日本語を勉強してきたため、日本の文化をよく知っていました。また、日本の看護系大学院の研究教育が進んでいることを大学の時からうかがっていましたので、看護系大学院に進学することを目指して日本に留学しました。一方、ぼんやりした夢もありますが、いつか教授になりたいと思っていましたので、そのためにでも、日本に留学して看護教育と研究のためのトレーニングを受けたいと考えるようになりました。

現在、千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域で、「**在日中国人女性に対する産褥期のうつ症状の予防的看護介入プログラムの開発・検証**」をテーマとした看護介入研究を計画し、調査を行いました。

簡単な背景ですが、出産後の女性は、身体及び精神・心理的側面に変化をきたしやすい状態にあり、特に一時的なマタニティー・ブルーや長期にわたる産後うつ病等のような精神障害が生じやすい時期にあります。特に、外国人女性の精神状態については、文化的習慣の相違から生じるストレスの多い生活上出来事で、産後うつ病の発症率は当地の女性より高いリスクを示していると報告されたこともあります。中国では、現代日本における出産文化とは異なる中国特有な産褥期の通過儀礼『坐月子』(Zuo Yue Zi)があることから、在日中国人女性は中国と日本の異なる産褥期の過ごし方の中で多くのストレスを感じて、出産後の精神的健康状態に影響を及ぼすことが推察されます。

中国と日本では産褥期の過ごし方においてどう違うかという、例えば、中国の伝統的な過ごし方ならば産後1ヶ月ほどできるだけ横になって安静することを推奨しますが、日本では産後できるだけ早いうちに歩くようにつまり軽く動くように推奨します。他にも、

中国では産後冷たいもの食べません。サラダとか、アイスとか、冷たい水も飲まないです。でも、日本では、産後入院食で冷たいヨーグルトとか、アイスとかを出しますね。他にも異なる部分があります。ここで、中国人女性が日本という異文化環境で、出産育児していくときどう適応していけばいいか、その違いにどう折り合いをつけて対処していくのがストレスの軽減になるかが大きな課題だと思いました。

私の修士論文では、在日中国人女性の産後うつ傾向である割合は54.5%で、産後うつ状態とストレス、産後うつ状態と入院生活上ストレスサーに関係があるということが認められました。

以上のことから、日本で出産する中国人女性は母国で出産する褥婦に比べて産後うつ病の罹患率が高く、文化の相違から生ずるストレスが出産後の精神的健康状態に影響を及ぼすと考えられます。従って、日本で出産する女性の産後うつ病の発症を予防するためには、産後うつ状態の発症の関連要因である文化と関連する要因についてのアセスメントに基づいた女性への看護介入を開発して検証する必要があると考えて、日本で出産した中国人女性を対象に、産後うつ病の発症を予防するための看護介入プログラムを開発し、その効果を検討することを目的として、博士論文の作成に取り組みました。その結果はまだ公表されていないですので、具体的に説明できませんが、ここで言えるのはいい結果が出ました。

私は博士課程を通して、母性看護学においてより高度な知識や研究スキルを身につけ、次の世代の健全な育成と女性の生涯を通じた健康を支援し、より健全な人間社会を築いていくことに、看護学の立場から貢献したいと思っています。そのため、日本で身につけた知識とスキルを生かし、日本で得られた知見を母国に取入れて中国の母性看護学の研究に携わる人材になりたいと思います。また、日本と中国の両国で看護学研究をすることで、看護学界における日本と中国の架け橋となって、看護学を通しての学術的交流を深める役割を担うことや国を超えた社会貢献ができるように、看護学教育研究者として活躍したいと思っています。その大きな夢を叶うための第一歩になると思いますが、卒業して今年の4月から名古屋の私立大学で助教として働く予定ですが、今後は国際看護学に携わって、看護学研究を通して特に日本と中国を学術の側面から多くの繋がりを結べて行きたいと思っています。

ロータリアンと交流して楽しみにしていること

米山奨学生となってから、懇親会や毎月の例会、および様々な活動に参加し、色々なことを勉強させて頂き、人間としての成長ができた実感しています。ロータリークラ

ブの会員達が様々な業界のリーダーであることから、ここは私が初めて日本社会に触れるアクセスでありました。自分の専門分野に離れて、違う分野のこともたくさんお聞きし、視野が広がってきました。10月ごろでしたが、カウンセラーの案内で、八街の落花生工場や、介護施設などを見学させていただきました。とても新鮮な経験であって、日本の地域社会を理解するにも良いきっかけになったと思います。

今後は、更なる交流を通して、企業リーダーの経験談や、素晴らしい社会人に、また社会に貢献できる人間になるためのアドバイスも伺いたいと思います。

また、米山奨学生となってから、ロータリアンとの交流だけではなく、いろんな国から集まった奨学生とも、研修会などを通して触れ合い、仲良くなって、多様な文化や価値観への理解が広がるようになったと思います。

同じ千葉大学での在學生だと言っても、専門分野が違うとなかなか知り合う機会がないんですが、ロータリー米山奨学生になってから、同じ千葉大学の奨学生たちと友達になって、昼ご飯とか、晩御飯とかを約束して一緒に食べながら、1日のことを話し合ったり、教授とのコミュニケーションがうまくいかない時も相談に乗ってくれたり、研究がどうしても進まない時、一緒に散歩でも行ってもらったりします。他にもたくさんありますが、本当に学生時期において、しかも最後の学年で、こんなに貴重なお友達ができるって、何より嬉しいことだと思います。

日本にいる間に学業以外で学んでおきたいこと

正直に言えば、日本に来る前までには日本に対して幾つかの誤解を持っていました。中学校のときから日本語を勉強してきましたので、日本に関して教科書や新聞を通じて得たイメージですが、日本人のほとんどの苗字は「田中」「鈴木」「渡辺」だと思いましたが、それは大きな間違いでした！全然読めない苗字がたくさんありますね！そして、いつもNHKニュースを聞きながらリスニングトレーニングをしてきましたので、日本人の発音はとっても綺麗だろう、と思い込みましたが、それも大きな勘違いでした！発音が綺麗なのはアナウンサーだけ！それで、最初日本にきた時、ショックを受けました！なんで5、6年も日本語を勉強してきたのに、日本人の日常的な会話が全く聞き取れないんだと！もう一つ日本人は真面目で几帳面で完璧主義者が多だろう、と思いましたが、それも勘違いでした！日本人って、考え方が柔軟で、臨機応変が上手な方が沢山いますね！私の研究室にもそういった方が何人かいて、いつも私の考えが固すぎ、想像力が乏しいと反省しています。

これらはとても日常的で、日々思いつくことですが、これら以外にも沢山ありますので、

今後はもっと多くの日本人と触れ合いながら、日本社会についてもっと知っていききたいと思います。

将来の国際交流についての考え方

国際交流について、私は看護学の世界にいるものとして看護専門職として活躍していくための視点からお話したいと思います。看護学学生の到達目標に対して、大学基準協会では「知的好奇心や広い視野をもって、排他性、閉鎖性に気づき多様化された価値観を認識する能力を身につける」と提示しています。日本の看護系大学を対象にした国際交流に関する調査では、国際交流を担当する公式な組織を設置している大学が多くみられます。このように国際交流を進めることは看護教育を発展させる上で不可欠になってきています。実際にカリキュラムの中に国際保健や国際看護などを取り入れたり、海外の姉妹校や交流協定先の大学で特別な科目の単位習得を可能にしている大学も増えていますが、大半は短期の学生研修という名目で、欧米を中心とした大学で講義の聴講や、大学教育設備の見学、看護関連施設の訪問など異文化体験をさせる内容にとどまっています。でも、ここで問題としてみられるのは、アジア圏での異文化交流が少ないことと、もう一つの問題としてみられるのは、研修にはほとんどの学生が私費で参加されており、アジア圏の中でも、国によってその文化がだいぶ異なって、医療システムやその国がもっているどくどくで伝統的な慣習などもだいぶ違います。今度 2020 年のオリンピックは日本で開催されますが、外国人を対象とした医療と看護を提供するに当たって、医療専門者にはどういった姿勢で対応すべきかが大きな課題であります。また、教育現場に戻りますが、学生に学習意欲があるとしても、経済的な問題で参加できない学生も大勢にいると思います。看護学の勉強意欲を高めるにチャレンジとなっていると思います。そこで、国際交流を推進するためには学内の環境作りを考えていくことが今後の課題であると考えますが、今度私が教員になって直面する問題としてじっくり考えていききたいと思います。

ロータリアン、世話クラブやカウンセラーとの奨学期間後の関わり方

今後はお世話になったクラブの方方との繋がりを続けていくために、まずは学友会に入会し、色々なイベントにもできる限り参加していきたいと思います。仕事の関係で世話クラブまでに行けなくても、カウンセラーに定期的な近況報告でもする形で繋がりを続けていきたいと思います。

奨学金を支給されどう役だっているのか、それに対する感謝の思い

経済面において、奨学金のお陰で、博士最後の一年に全力で学業に専念することができて、予定通りに今年3月に卒業することになりそうです。ロータリー米山奨学金がなかったら、絶対にこんなに順調に学業を終えることができないと思います。

これは全てロータリー米山記念奨学金のお陰です。ロータリー米山には言葉に言い尽くせないほど感謝しています。本当にありがとうございます！

ご静聴ありがとうございます。